

やましなめうけんたう
山科妙見堂

せいりようさん かくかじ
青瀧山白河寺

〔東野村にあり、禪宗妙心寺に属す。本尊阿弥陀仏は慈覚の作、立像二尺余、後白河院の宸牌、同

帝の石塔あり。当寺初めは浄土宗、野口山別時寺と号す、中興梅天和尚

さんのみやみやうじんのやしろう
三宮明神社

〔同所にあり、祭神三座、葺不合尊、左、稲荷、右、八幡、此所の生土神とす〕

あみだじ
阿弥陀寺

〔三宮本地堂なり。本尊阿弥陀仏、脇土、毘沙門、不動。開祖は大僧都頼音坊、寛永年中の建立なり。後水

のを
尾帝の勅願所なり

くわさん いなりのやしろう
花山稲荷社

〔南花山にあり、世の人 大石稲荷と称す。近年再建あり〕

ばいほんじ
梅本寺

〔花山追分の南にあり。禪宗、曹洞。中興は加州金沢大乘寺四十一世祖伝和尚なり〕

本尊十一面観音〔長二尺。脇土は愛染、不動。此本尊を笈摺の観音と号する事は、花山帝の愛妃弘徽殿の女御空しくな
らせ給ふ御時、悲歎涕泣なをあまりあり、故に治世二年にして寛和二年六月廿二日、聖寿十九才にして帝位をおりさせ

給ひ、此花山寺くわさんじに至り御鬘を剃除し給ひ、法諱にふがくを入覚と改め、花山法皇くわざんと称し奉る。其後熊野くまの三所権現の霊夢を蒙り、畿内の近国にて靈仏の觀世音卅三所を選ませ、これを巡行し給ふ。是西国巡礼の始なり。其時自身笈ふっげん仏を負せ給ふ事は、玉体疲れ給はんとて、当寺の始祖ふっげん眼上人、笈ふっげんの御衣に觀音の像を画かせ御肩にかけさせられめぐり給ふ。其笈ふっげんの觀音を模して当寺の本尊とす、故に笈ふっげんの觀音とぞなづけける」